昭和21年7月10日第3種郵便物認可

企業説明会に2千人

県内高校3年生　仕事のやりがい聞く

県などは19日、就職を希望する県内の高校3年生全員を対象にした初めての企業説明会を和歌山市のビッグホエールで開いた。約2千人が集まり、希望する企業の担当者から仕事内容ややりがいなどを聞いた。

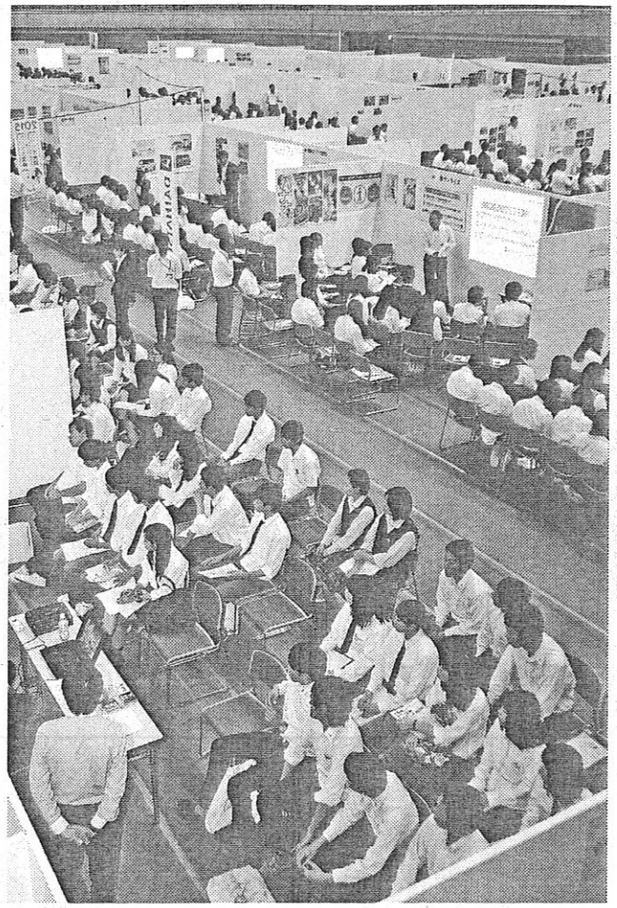
県と県教育委員会、和歌山労働局、和歌山市が主催の「応募前サマー企業ガイダンス」。今後、県内高齢化率の上昇が見込まれる中、県などは地域を支える若い人材を確保しようと、高校生の県内就職推進に力を入れている。求人解禁は7月1日だが、早くから、県内企業の魅力を知ってもらおうと開いた。

開会式では、仁坂吉伸知事が「和歌山は田舎で働く所がない、ろくな企業がないから県外に出るしかしょうがないというのは全くのうそ。知らないだけで、希望に応えられる立派な会社は、他県に比べてもいっぱいある。自分の目で確かめて」とあいさつした。

企業説明会には、県内企業111社・団体が参加。田辺市中万呂の建設業、濱本組のブースでは、担当者が同市の会津小学校校舎を手掛けたことを紹介。「自分が関わった建物が地図に残るような仕事。子どもができたときに自慢できるよ」などと笑顔を交えてやりがいを説明した。ほかのブースでも、各担当者が仕事内容や大変さ、やりがい、福利厚生などを説明。高校生は関心がある企業団体のブースを回り、企業パンフレットを手に真剣に耳を傾けた。

農産物直売所「よってって」などを県内外で経営する田辺市宝来町のプラスの担当者は「今後の事業展開を見据えて人員を充実させたいと考えている。プラス発想でチャレンジできる人に来てほしいが、このような催しは会社を知ってもらういい機会になる」と歓迎。説明については「企業理念を知ってほしいが難しい。地域に貢献しているということを伝えられればと思う」と話した。

熱心に担当者の話を聞いていた田辺工業3年の男子生徒は「地元が好きで親とも離れたくないので、県外に出るつもりはない。学校で学んだことが生かせる工業系が希望。説明会では参考になる話が聞けた」と喜んだ。



就職希望の高校生2千人が参加した「応募前サマー企業ガイダンス」（19日、和歌山市で）